

# 平成28事業年度 自己点検・評価書

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告(自己点検書)	自己評価	
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1-1 豊田市ほか地域の校長等に出向き本校の学校説明を行い、中学生の進学先の一つとしてアピールする。《1》</p> <p>①-1-2 教員が愛知県及びその近隣市町村まで含めた中学校を対象に、主要校は毎年、その他の学校は2年に1度訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供する。《2》</p> <p>①-1-3 新1年次学生が出身中学校を訪問するなどして学生の視点から見た本校の情報提供を行う。《3》</p> <p>①-1-4 教員が中学校主催の進学説明会等へ積極的に参加し、情報提供を行う。《4》</p> <p>①-1-5 塾関係者対象の説明会などへも参加し、より多くの関係者に情報提供を行う。《5》</p> <p>①-1-6 地域住民やメディア等へ積極的に本校の学校行事等について情報提供する。《6》</p> <p>①-2-1 中学生を対象とした各種コンテストを実施する。また、小学生やその保護者をも対象として、本校への理解と関心を深める施策を実施する。《7》</p>	<p>《1》6月29日に開催された豊田市小中学校校長会に校長が出向き、学校概要、出前授業、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の今年度実施行事について、及び本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようPRした。</p> <p>また、同日開催の豊田市中学校校長会へ教務主事補が出向き、入試説明を含む学校説明を実施した。</p> <p>《2》7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行った。</p> <p>《3》6月から10月にかけて、約70名の1年生が、出身中学校を訪問し、学生の視点から本校の情報提供を行った。</p> <p>《4》中学校主催の進学説明会(6校)に出向き、中学生及び保護者に本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。また、中学校の総合学習の一環である上級学校訪問(1校)を受け入れ、施設見学等を通して本校の特徴について説明し、進路決定の参考となるようPRを行った。</p> <p>《5》昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の生徒・保護者対象の高校説明会(9月19日)及び私塾講師対象の私立学校合同説明会(尾張(10月14日)及び三河地区(10月12日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。</p> <p>《6》以下のメディア等により、本校の行事等について情報が発信された。(『』はタイトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『小水力発電アイデアコンテスト優勝』(朝日新聞:4/6)</li> <li>・『小水力発電アイデアコンテスト優勝 市役所へ優勝報告』(中日新聞:4/26)</li> <li>・『豊田高専生設計の家完成』(中日新聞:5/26)</li> <li>・『市街地の子招き山村で交流(ドミタウン)』(中日新聞:6/6)</li> <li>・『情報処理技術で地域貢献(フロン全国大会出場)』(中日新聞:8/31)</li> <li>・『豊田高専がフロン出場』(中日新聞:9/8)</li> <li>・『寸劇や演奏 楽しく交流』(新三河タイムズ:9/29)</li> <li>・『小学校対抗てらこやクイズバトル』(とよたみよしホームニュース:10/1)</li> <li>・『高専吹奏楽部寸劇付演奏 障害者施設で交流』(中日新聞:11/9)</li> <li>・『豊田高専 子ども向け科学教室』(中日新聞:11/27)</li> <li>・『豊田 てらこやクイズバトル』(中日新聞:12/13)</li> <li>・『部活紹介番組「部ラボー」で演劇部紹介』(エフエムとよた 1/9, 1/10, 1/11, 1/12, 1/13, 1/14)</li> <li>・『ミニ信号機に点灯』(中日新聞:3/21)</li> </ul> <p>以下ケーブルテレビ「ひまわりネットワーク」放送分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『モット!じもと〜目指せ!甲子園!〜』(6/25)</li> <li>・『スポーツキングダム-運動王国-全国高等専門学校体育大会 卓球競技』(8/26)</li> <li>・『とよたNOW-吹奏楽部コンサート』(9/9)</li> <li>・『スポーツキングダム-運動王国-全国高等専門学校体育大会 剣道競技』(9/23)</li> <li>・『とよたNOW-吹奏楽部コンサート』(9/9)</li> <li>・『とよたNOW-ハンドボール部全国大会優勝報告(豊田市役所)』(10/7)</li> <li>・『とよたNOW-とよた高専ワクワク広場 おもしろ科学教室』(11/29)</li> <li>・『スヌメ部活道-豊田高専 ロボコンチーム-』(1/7, 2/4)</li> <li>・『とよたNOW-豊田高専ワークショップ「ロボットプログラミングに挑戦」』(1/11)</li> </ul> <p>《7》公開講座において、中学生向けの2講座コンテストを実施し、53名の参加を得た。</p> <p>課題:本校の夏季休業が8月から9月下旬となり、中学校等の夏季休業と重なる8月に本校の体験入学等志願者対策イベントが集中する事態となり、中学生の学事日程を避けながら公開講座開催日程の校内調整がさらに難しくなっている。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>②-1 愛知県及び隣接県の中学生、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を延べ10以上の会場で実施し、本校の特色、入試情報(マークシート方式の採用)、及び「オープンキャンパス」の説明をする。《8》</p> <p>②-2 中学3年生を対象とした「体験入学」を実施し、その際、女子の在校生、卒業生及び女性教員による女子中学生向けの高専女子講座を行う。《9》</p> <p>②-3 女子学生の受け入れ増のため、受入れ体制の整備を行うとともに、女性教員の採用推進に努める。さらに、増員した女子寮のPRを行う。これに加え、通学生が安心して通学できるよう、通学路の安全性を引き続き確保する。《10》</p> <p>②-4 高専女子フォーラム等の機会を利用し、女子学生志願者増に取り組む。《11》</p>	<p>《8》昨年度に引き続き、愛知県及び隣接県の主な中学校の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を6月から11月にかけて11会場で実施(参加者数6612名)し、本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。また、体験入学、オープンキャンパス及び文化祭の際に、個別相談を主体にした進学相談コーナーを設けた。来年度は今年の参加者数をもとに学校説明会の会場を見直す。</p> <p>《9》8月8日に中学3年生を対象に「体験入学」を実施(参加者数661名)し、学科別の体験授業等を行い本校の特徴をPRした。また、女子の在校生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行った。</p> <p>《10》4月に女性教員2名を採用した。</p> <p>学校説明会やオープンキャンパス等において、特に女子寮については、安全対策(セキュリティの強化として二重ロック、防犯カメラの設置、及び寮母の設置等)を充実させている旨の説明を行っている。</p> <p>正門付近の公道(歩道)に横断歩道が一部ない箇所があり、安全確保のため、豊田市及び豊田警察署に当該箇所の横断歩道の整備を要望し、今年度の秋に設置されより安全な通学路が確保出来た。</p> <p>《11》機構が作成した「平成28年度版キラキラ高専ガールになろう」というリーフレットをオープンキャンパス等において積極的に女子中学生に配布した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>③-1 入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成し、中学校等へ配布するとともに、各種行事においても本校ロボット等のデモンストレーションを実施し、参加者らにアピールする等の広報活動を継続する。《12》</p> <p>③-2 本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況及び進路状況等について掲載し、広く情報を公開する。《13》</p>	<p>《12》入学案内、PRリーフレット、体験入学・オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介リーフレットを作成した。特にPRリーフレットについては、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生全員に配布いただけるよう送付した。また、体験入学・オープンキャンパスチラシについても、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生の全クラスに掲示いただけるよう送付した。さらに、オープンキャンパスについては、豊田市役所内にある記者クラブへのチラシ提供を行い、今年度のオープンキャンパスの参加者数は10月15・16日の2日間で合計790名であった。また、連携協定により豊橋技術科学大学のオープンキャンパスへ、本校ロボカップが出品し、本校ブースに300名程度の来場者があった。</p> <p>《13》本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況等について掲載し、広く情報を公開した。また、進路状況については、各学科のウェブページで公開した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>④ 推薦選抜における面接では、ものづくりに関する質問をするなど、引き続き本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるよう適切な入試を実施する。《14》</p>	<p>《14》推薦選抜の面接時に、ものづくりに関する質問をするなどについて入試委員会で検討を行っている。また、学力検査でのマークシート方式に対応するため、体験入学でマークシートを利用した講座を行い、中学生に説明した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>⑤-1 入学者の学力水準の維持に努めるとともに入学志願者数を維持するため、地元校長会、各中学校進路担当者、及び地元の進学塾が開催する入試説明会等を訪問し、県下の志願者動向に関する情報を収集・分析する。《15》</p> <p>⑤-2 引き続き機構から周知される事例を検討し、実施できるものから実施する。《16》</p>	<p>《15》6月29日に開催された豊田市小中学校校長会に校長が出向き、学校概要、出前授業、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の今年度実施行事について、及び本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようPRした。</p> <p>また、同日開催の豊田市中学校校長会へ教務主事補が出向き、入試説明を含む学校説明を実施した。</p> <p>7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行うとともに県下の志願者動向に関し入学試験実施委員会で分析を行った。さらに昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の入学志願者及び保護者対象の高校説明会(9月19日)及び私塾講師対象の高校説明会(尾張(10月14日)及び三河地区(10月12日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。</p> <p>《16》機構が作成した「平成28年度版キラキラ高専ガールになろう」というリーフレットをオープンキャンパス等において積極的に女子中学生に配布した。また、体験入学では、女子の在校生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行った。</p> <p>中学生やその保護者に「高専」及び「ものづくり教育」を理解してもらうために、機構から配布された高専紹介用のDVDを学校説明会、体験入学及びオープンキャンパスの会場で放映した。</p>	○	計画どおり実施できた。

# 平成28事業年度 自己点検・評価書

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告(自己点検書)	自己評価	
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1 モデルコアカリキュラム(試案)に基づき、かつ5~10年後の高専卒業生に必要な能力を検討した上で構築した新しいカリキュラムを今年度の1年生から適用する。また、引き続き、社会情勢の変化等に対応した専攻科の在り方等を不断に検討するとともに、外部有識者等の意見を積極的に取り入れる。《17》</p> <p>①-2 教育改善推進室が実施する授業改善に関するアンケート等の資料を基に、各教員が自己評価を行い次年度以降に役立てる。《18》</p> <p>①-3 専攻科のさらなる充実に向け、社会や産業界のニーズを踏まえたPBL型教育をカリキュラムに組み込み、自治体や企業と連携した「共同教育」として、その推進を図る。《19》</p>	<p>《17》モデルコアカリキュラムに基づく新カリキュラムを構築し、本年度の1年生から適用している。とよたイノベーションセンターの活動(企画会議・企業訪問など)を通して、豊田市・豊田商工会議所・地域のものづくり企業各社から社会の意見を吸い上げ、社会情勢の変化に対応した専攻科のあり方を検討している。</p> <p>《18》前期は7月に授業改善に関するアンケートを行い結果を取りまとめ各教員ならびに校長へ報告した。なお、対応策は各教員において学生へフィードバックを講義の際に行っていたが、以降の授業改善の資料としていただいている。なお、それらの結果はファイルにし各学科・学生へ公開している。後期の授業改善に関するアンケートを行い取りまとめた結果は各教員に報告した。対応策は3月中に各教員から提出を願い、4月の新学期前に取りまとめ校長へ報告するとともに各学科・学生へ公開する。</p> <p>《19》本校並びに豊田市及び豊田商工会議所が連携し設置したとよたイノベーションセンターの教育プログラムの一つである「一気通観エンジニアの養成プログラム」に専攻科生を参加させ、地元企業技術者との混成チームでのPBL教育を実施し26名が修了した(7期生 企業受講者数11名、高専専攻科生15名)。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>②-1 機構が実施する学習到達度試験を第3学年全員に受験させ、学力の定着度を把握する。《20》</p> <p>②-2 年2回TOEIC-IP団体受験を学内で実施する。10月上旬に実施する試験では、本科第3学年及び専攻科1年次の学生に対し、全員受験を義務付ける。更に、英文多読・多聴を全学科で実施し、英語力の向上を目指す。《21》</p> <p>②-3 TOEIC、実用英語技能検定、工業英語能力検定等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。また、TOEIC、実用数学技能検定については、学内団体受験引き続き、年2回実施する。《22》</p>	<p>《20》昨年度の到達度試験の結果をもとに、全国平均との比較、平均値の経年変化、学科別、領域別正当回答率を教務委員会において分析した。平成29年1月12日に第3学年全員を対象として学習到達度試験を実施した。</p> <p>《21》年2回TOEIC-IP団体試験を学内で実施した。1回目は本科第3学年及び専攻科第1学年の学生全員に受験を義務付けたもので、10月1日に行い、276名の学生が受験した。また、12月10日に2回目を実施し、65名が受験した。さらに、全学科で英文多読・多聴を実施し、英語力の向上を目指した。</p> <p>《22》4月から、実用英語技能検定等の資格取得を奨励する資料を教室に掲示し学生に周知した。学内団体受験については、6月18日に1回目の実用数学技能検定(78名受験)を行い、11月12日に2回目の学内団体受験(116名受験)を行った。TOEIC-IP試験は10月1日に1回目(276名受験)を行い、12月10日に2回目の学内団体受験(65名受験)を行った。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>③-1 教育改善推進室が中心となって、平成21年度から実施し蓄積している卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象にしたアンケートを継続して行い、経年変化を検証し改善案を審議する。《23》</p> <p>③-2-1 アンケート結果を全教員へ公開し、教授法改善の資料を提供する。《24》</p> <p>③-2-2 教員と学生との対話会を実施し、得られた情報等を全教員へフィードバックする。《25》</p>	<p>《23》卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性についてたずねたアンケート結果を集計分析を進めている。結果は室員会議を経た後、学内ウェブで公開する。</p> <p>《24》前期講義科目については既に全教員へ公開している。後期講義科目については、対応策を3月中に各教員から提出を願い、4月の新学期前に取りまとめ校長へ報告するとともに4月13日に全教員・学生へ公開した。</p> <p>《25》教員と学生との対話会を学生会の役員改選後新旧役員をまじえ1月24日に開催した。得られた情報は関係部署に報告するとともに学内ウェブで公開した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>④ 全国高等専門学校体育大会、同ロボットコンテスト、同プログラムミングコンテスト、同デザインコンペティション、同プレゼンテーションコンテスト、高体連の大会及び文化系クラブの外部大会等に学生が積極的に参加できる体制作りを行う。前学期定期試験期間の変更にもとない、同期間の平日に高体連や高野連等の大会に学生を参加させるためのガイドラインを示す。《26》</p>	<p>《26》昨年度に引き続き、委嘱した外部コーチによる日常の技術指導、非常勤雇用の課外活動指導員による休日の練習試合及び各種大会等への引率指導を可能とする体制を維持した。また、資金面においても、教育後援会による課外活動支援を引き続きお願いし、前述の体制づくりと共に、学生が様々な大会に参加しやすい環境を整備した。さらに、定期試験期間中に開催される高体連や高野連が主催する公式試合への参加について、特別欠席の願い出や追試を願い出る学生がいた場合のガイドラインを示した上、実施した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>⑤ 学生にボランティア活動や自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し、特に夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き、指導する。《27》</p>	<p>《27》ボランティア活動、自動車関連ものづくり講座、自然資源活用ものづくり及び企業と共同でのものづくりの企画、設計、製作などを行う産学連携実践セミナーについて単位認定を行い、学生の参加を促した。また、夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう、2月開催の教務委員会の場で指導の依頼を行った。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>(3) 優れた教員の確保</p> <p>① 科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行う。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努める。《28》</p>	<p>《28》科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行っている。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努めている。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>② 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、派遣者推薦及び受入要望を積極的に図る。また、大学・企業等との人事交流制度等について、引き続き検討を行う。《29》</p>	<p>《29》「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、派遣者推薦及び受入要望を積極的に図っている。また、大学等と個別に情報交換し、新たに愛知教育大学と包括連携協定を締結し、人事交流を図ることとなった。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>③ 専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とする。また、一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有していることを採用要件とする。《30》</p>	<p>《30》専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とし、一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有していることを採用要件としている。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>④-1 女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記する。《31》</p> <p>④-2 男女共同参画推進室が中心となり、女性教員の働きやすい環境の整備に向けて、必要な制度や支援策について検討を行う。また、検討した内容について、全教職員へ周知を図る。《32》</p> <p>④-3 女性教員採用に伴う特別経費配分制度等を積極的に活用する。《33》</p>	<p>《31》女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記している。</p> <p>《32》名古屋大学男女共同参画室から講師を招いて、大学での先進的な取組や活動についての講演会を行い、本校での職場環境整備のための参考とした。また、機構本部の男女共同参画意識啓発講演会に学科長等が参加し、意識啓発を行った。3月に実施された第3ブロック男女共同参画推進担当者会議に参加し、各校の現状と課題について情報交換を行った。</p> <p>《33》女性教員が採用後すぐに研究が開始できるよう通常の教員研究費以外に初度調弁費として研究費を配分した。また、環境整備として女子トイレの便座交換等を実施した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>⑤-1 教員の能力向上を図るため、近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修へ積極的に参加させる。また、引き続き新任教員に対して年度早々の研修やフォローアップ研修などを実施する。《34》</p> <p>⑤-2 教育改善推進室において、例年行ってきたFDシンポジウム・セミナーを継承する。また、本校の特徴を踏まえた教材選択や教育方法の開発について検討するとともに、教授法について情報交換を行う。《35》</p> <p>⑤-3 FDシンポジウムの開催日を調整し、今年度早期に企画開催する。《36》</p>	<p>《34》インストラクショナルデザイン研修(1名)・アクティブラーニングトレーナー研修(1名)への教員を派遣している。また、新年度採用の教職員に対しては4月25日に研修を実施し、年度途中に採用した教員には採用月に研修を行った。また、新任教員に対してはさらに4回(6月16日・8月2日・12月6日・2月27日)の新任教員研修を行なった。</p> <p>《35》教育改善に関わる書籍の購入を行い貸し出しできるようにしている。また、小セミナーや新任教員研修会を6月16日並びに8月2日に開催することで教育方法の開発について検討や教授法について情報交換を行った。</p> <p>《36》FDシンポジウムを5月25日に開催した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>⑥ 本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動・研究活動・学生指導・社会貢献・学校運営に顕著な功績が認められる教員を選考し、表彰する。《37》</p>	<p>《37》本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動・研究活動・学生指導・社会貢献・学校運営に顕著な功績が認められる教員5名を選考し、内2名を機構へ推薦した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>⑦-1 教員に国内外の大学等で研究・研修する機会を設ける。《38》</p> <p>⑦-2 教員の国際学会への参加を促進する。《39》</p>	<p>《38》研修案内が届いたものは必ず教員に周知または斡旋した。</p> <p>《39》可能な限り、国際学会等への参加ができるよう、不在中の業務支援を各学科が中心となり実施した。</p>	○	計画どおり実施できた。
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>① モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画を次のように実施する。関係部署と連携をとり、モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラムを策定し、教育改善推進室において資料の選定・保存・保管を行う。また、昨年度の検討事例を踏まえ、教育改善推進室員によるアクティブラーニングに向けた機器の周知を行うとともに、関係部署と連携し、ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の周知を行う。《40》</p>	<p>《40》本校では、モデルコアカリキュラムに基づくカリキュラムを構築し、本年度の1年生から適応するとともに、教育改善推進室において教育課程表、シラバス、定期試験等の資料の選定、保存、保管を行った。さらに、教育改善推進室員によりアクティブラーニングに向けた機器(EduClickやEzcast)の運用の開始と、教務主事グループとの連携により、アクティブラーニング・ルーブリックへの研修に教員を派遣し(7月14日第3ブロックAL推進研究会、11月17日第3ブロックAL推進研究会、12月21日から22日ALトレーナー教員研修会など)、情報収集を行った。</p>	○	計画どおり実施できた。

# 平成28事業年度 自己点検・評価書

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告(自己点検書)	自己評価
<p>②-1 昨年度のJABEE認定教育プログラムの認定審査において指摘された事項に対して改善を図るとともに、継続的な教育改善のためのPDCAループを回す。《41》</p> <p>②-2 実用数学技能検定、デジタル技術検定、CAD利用技術者、電気主任技術者、測量士、宅地建物取引士等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。《42》</p>	<p>《41》全学科の継続的な教育改善のためのPDCAループを確実に推進するため、新たに自己点検・評価フォーマットを作成し、平成28年度の自己点検・評価から導入することとした。</p> <p>《42》6月18日に1回目の実用数学技能検定の学内団体受検(78名受検)を行い、また、11月12日には2回目の学内団体受検(116名受検)を行った。さらに、デジタル技術検定の学内団体受検を11月27日に実施(57名受検)した。</p>	○
<p>③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、全国の高専との学生会交流行事に積極的に参加させる。また、東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会に参加し、他高専の外国人留学生との交流を図るとともに、学寮においても留学生の交流の機会を企画し実施する。《43》</p>	<p>《43》夏季休業期間中である8月に全国高専学生会交流会が本校の学生会が主管となり開催し、各校の学生会活動等について意見交換を行った。また、中部地区高専の学生会役員が集まる交流会を3月10日～12日の2泊3日で本年度は富山県で開催され参加した。12月23日から12月25日に開催される乗鞍青少年交流の家での東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会に10名が参加した。</p>	○
<p>④ 特色ある優れた教育実践例や取組事例を、「全国高専フォーラム」や、各種学協会の研究会・論文集等を通して公表する。《44》</p>	<p>《44》特色ある優れた教育実践例や取組事例を、「全国高専フォーラム」や、各種学協会の研究会・論文集等を通して公表した。</p>	○
<p>⑤ 平成26年度受審した機関別認証評価における評価結果を受け、外部評価対応委員会にて対応策を策定する。それに基づいて、継続的な教育改善活動を行う。《45》</p>	<p>《45》平成26年度受審した機関別認証評価における評価結果及び平成27年度JABEE5学科同時受審を受け、外部評価対応委員会にて対応策を検討した。その結果、新たに自己点検・評価フォーマットを作成し、可能な限り情報の見える化を推進することとし、本年度分の自己点検・評価からの導入・実施を決定した。</p>	○
<p>⑥-1 第4学年で実施されている「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう昨年に引き続き実施方法の改善及び近隣企業への協力要請に努める。受け入れ企業先を多くするために、昨年度から夏季休業期間を8月上旬から9月中旬に変更したので、その効果を検証する。《46》</p> <p>⑥-2 専攻科においては、より多くの学生がインターンシップに参加できるように努めるとともに、企業や自治体と連携した「共同教育」を実施し、その取組事例を公表する。《47》</p>	<p>《46》本科4年生を中心にインターンシップに178名が参加し、就業体験した。参加者数は昨年度より23名減であったが4年生の参加者比率としては約81%であった。今後は更なる参加者増を目指すため、インターンシップ受入企業が記入しやすいよう様式の見直しを行うとともに、教員と連絡を密にとる等し、近隣企業への協力要請を強化する。受入先企業数については、昨年度161社、本年度は117社であった。</p> <p>《47》専攻科生も夏休み及び春休みを利用したインターンシップに参加しており、さらにISTSやファシリテーションスキル英語研修を通して海外での研修にも参加している。豊田市及び豊田商工会議所と連携した「共同教育」である「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」を実施しており、その取り組み事例を、本校ホームページ・「とよたイノベーションセンター事業報告書」・広報「一気通観だより」等により公表した。</p>	○
<p>⑦-1 専攻科において、企業技術者や外部の専門家と協働した教育体制の構築を図る。そのため、地元自治体の豊田市及び豊田商工会議所との連携強化に努める。さらに、(株)デンソー技研センター(株)デンソーの人材育成機関)と連携し、高い技能をもった指導員による学外研修を実現する。《48》</p> <p>⑦-2 地域の先進的のものづくり企業と連携し、ものづくり現場における実践的な課題に取り組むプロジェクト実習を実施する。《49》</p> <p>⑦-3 日本弁理士会東海支部の協力を得て、第4学年を対象に知財教育を実施する。《50》</p>	<p>《48》豊田市及び豊田商工会議所と連携した「共同教育」である「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」を実施しており、その取り組み事例は、本校ホームページや「とよたイノベーションセンター事業報告書」で公表する。</p> <p>《49》一気通観エンジニアの養成プログラムにおいて、専攻科生が参加し、地元企業技術者との混成チームでの教育を行った。今年度の修了者は、企業受講者11名、高専専攻科生15名の計26名となった。また、本科においても、自動車部品メーカーにおいて、企業技術者及び本校教員の指導を受けながら、企業の問題解決を行うプログラムを実施した。</p> <p>《50》日程調整がうまくいかず、開催できなかった。</p>	○
<p>⑧ 豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、教員交流・出前授業・オープンキャンパス行事の相互参加などの連携事業を実施する。《51》</p>	<p>《51》豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、お互いのオープンキャンパスへ相互出店した。豊橋技術科学大学の本校ブースにはロボカップを出展し、約300名の小学生及び保護者がロボットの模擬実演を体験した。また、教員交流事業として豊橋技術科学大学の若手教員等7名を本校に受入れ(12月19日開催)、高専教育を理解する貴重な場を提供した。</p>	○
<p>⑨-1 「共同教育」について長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学を初めとし、高専も含め多数の学校との、「eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定」により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れ、引き続き学生へ提供する。《52》</p> <p>⑨-2 学内向けWWWサーバにeラーニングシステムを構築し、情報教育センターの演習室を利用する科目を登録して、電子的な資料の配布や課題の提出を行う。また、情報工学科では、学科専用の50以上のコースを活用する。《53》</p>	<p>《52》eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れた結果、次のとおりであった。 【前期受講生数】長岡技術科学大学：54名、【後学期受講生数】長岡技術科学大学：17名、九州工業大学：6名 外部の関連科目を学ぶ機会が増え、ICT教育による学習習慣が定着するのに寄与した。</p> <p>《53》学内向けWWWサーバにmoodleを使用したeラーニングシステムを構築。マルチメディア情報教育センターからの連絡事項、情報セキュリティ対策の基礎知識(独立行政法人 情報処理推進機構 作成)掲載した。また、情報工学科においてはmoodleを使用して50以上のコースを活用した。</p>	○
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①-1 機構等が開催する教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象としたいじめ防止対策をはじめとする学生指導等に関する講習会を実施する。 また、平成24年度に拡充した学生相談室を中心に学生のメンタルヘルスについての取組を強化する。《54》</p> <p>①-2 1年次、2年次、3年次において、メンタルヘルスの基礎となる自発的なコミュニケーション能力の育成を意識させるなど学年に応じた目的達成のため合宿研修を引き続き実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身につけさせるとともに、学生、教職員の交流を図る。《55》</p> <p>①-3 学生相談部門、障害学生支援部門および保健管理部門を備えた学生サポート室を整備し、学生支援の充実を図る。《56》</p> <p>①-4 1年生、2年生の状況に応じた学寮におけるアセンブリを開催し、生活サポートを行う。《57》</p>	<p>《54》昨年と同様に、精神科医1名と臨床心理士3名を雇用(非常勤)し、学生相談体制を維持した。「全国大学保健管理協会東海北陸地方部会研究集会」(7/28,29)、「東海・北陸学生支援連絡会議」(9/20,21)に学生サポート室長や看護師が参加し、情報交換を行った。さらに、「高専学生支援担当教職員研修」(12/14-16)にも参加した。また、「学校いじめ防止基本方針」を本校HPに公開するとともに「いじめに関するアンケート」を10月から11月にかけて実施し、教職員に対しては障害学生支援をテーマに外部講師による講演会を12/8に実施した。</p> <p>《55》第1学年には学生相談室オリエンテーション(5/25)、第2学年には「人間関係」の体験型講演会(5/19-6/27)、第3学年には「こころを大切に」(5/27-6/16)をテーマにした講演会をクラス単位で実施し、その中で性格テストを行い、講師のカウンセラーがテスト結果を解説した。さらに、4月から5月にかけて、全学生を対象に「こころと体の健康調査(UP!精神健康調査)」を実施し、調査の結果、カウンセリングが必要となった学生に対しては学生相談室に呼び出してカウンセリングを行った。また、第1学年を対象に合宿研修(1泊2日)(6/10,11)を実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、生活習慣を身につけさせるとともに、学生と教職員の交流を図った。年度末には、第2学年を対象に自然とふれあう中での気力とスキー技術の向上を目的として、スキー教育(2泊3日)(3/1-3)を実施した。</p> <p>《56》学生サポート室規程と関連部門業務要項を整備した。</p> <p>《57》平成28年6月15日及び7月13日に、1年生、2年生の状況に応じた内容で学寮アセンブリを開催し、生活サポートを行った。</p>	○
<p>②-1 教育研究に資する図書を厳選して整備するとともに、視聴覚機器、マルチメディア機器を引き続き整備する。他の図書館との情報交換を実施しながら、外部に開かれた図書館としてその役割を拡充し図書館の利用を促進する。《58》</p> <p>②-2 寄宿舎新舎による入寮定員拡充後の次の段階として、既設寮の改修整備、浴室増設などによる寄宿舎環境の質的向上について検討を進める。《59》</p>	<p>《58》各学科からは推薦図書、ブックハンティングによる学生の意見を取り入れた資料整備を行った。11月27日多治見図書館で開催されたシンポジウム「図書館多読への招待 in 多治見」に参加し情報交換を行った。</p> <p>《59》寄宿舎環境の質的向上として要求していた、大志寮改修工事が第2次補正で予算化され、内外全面改修及び浴室の増設を計画している。</p>	○
<p>③-1 学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知する。その際、掲示、プリント配布、指導教員からの周知だけでなく、該当者には個別に情報発信し、積極的に周知するとともに、必要な説明会を随時実施する。《60》</p> <p>③-2 創立50周年記念行事の一つとして設けた学生支援基金の活用を引き続き進める。《61》</p>	<p>《60》入学者オリエンテーション時(3/9)に学生及び保護者へ日本学生支援機構等の奨学金制度について(プリント配付及び口頭説明により)案内を行った。また、在校生には電子掲示板への掲示及び指導教員から募集案内を告知し、希望者については、随時、学生課窓口で個別に説明した。さらに、地方自治体が実施する奨学金制度案内についても電子掲示板等に掲示し、希望者については個別に学生課窓口で説明を行った。一方、貸与満期を迎える学生に対しては、返還説明会を実施し、奨学金返還の重要性や延滞防止に向けた指導を行った。</p> <p>《61》学生支援基金を原資とした学生支援奨学金を昨年度設置し、本年度2件給付を行った。</p>	○

# 平成28事業年度 自己点検・評価書

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告(自己点検書)	自己評価
<p>④-1 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を見直し、進路検索システム利用の促進を図る。進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)を有効に活用しながら学生の就職及び進学に関して進路指導を丁寧に行う。(62)</p> <p>④-2 キャリア教育支援室を中心に、低学年から学習意欲の向上、学生の進路選択・決定のための支援活動を組織的にを行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。地元企業との連携によるしごとガイダンス、同窓生との連携による模擬面接講座など実践的な就職活動の支援を行う。(63)</p>	<p>《62》学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するための提供・相談体制の見直しについて検討した結果、各学科における従来の体制と並行して、年間700件以上の求人票データを閲覧可能な進路検索システムの整備、大学案内・求人票を学生が自由に閲覧できる進学・求人情報コーナーの学生談話室への設置をした。さらに、進路検索システム利用促進向け、求人データ入力の迅速化等を行った。また、進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラムについては、インターンシップに向けたビジネスマナー等の研修講座(7/13)、エントリーシートや履歴書の記入講座を12月に実施した。</p> <p>《63》キャリア教育支援室においては1年から5年までの各学年において、目標を定めて、段階的、組織的にキャリアを身につけさせる活動を行った。1学年では合宿研修(6/10,11)、2学年では人間力講演会(11/2)、3学年では就職先調査発表会(6/29)を行い、4学年及び専攻科1学年ではビジネスマナー講演会(7/13)を実施したほか、12月以降、履歴書作成、模擬面接の各講演会の本格的な就職準備に向けた講座を実施した。また、地元企業との連携によるしごとガイダンス、3/11には同窓会の協力を得て模擬面接講座を行った。</p>	○
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>①-1 施設環境整備委員会において、エネルギーの使用状況や施設の利用実態等を確認し、効率的な利用等の検討を行うとともに、キャンパスマスタープランに基づく整備計画の検討をさらにすすめる。(64)</p> <p>①-2 一般学科・管理棟の行い、教育環境の向上を図る。また、老朽化した体育館屋上の改修工事を行う。(65)</p> <p>①-3 老朽化したライフラインの整備計画の検討をすすめる。(66)</p>	<p>《64》総務会議及び施設環境整備委員会で定期的にエネルギー使用状況を報告し、省エネを啓蒙している。また、施設の効率的な利用を推進するよう、今年度も共同利用スペースを一定数確保し有効利用を図った。キャンパスマスタープランに基づく整備計画を推進するため平成29年度の概算要求を行った。</p> <p>《65》一般学科・管理棟の内部全面改修を行い、空調設備の更新及び集中管理を出来るようにするとともにコラボレーションスペースを計画し教育環境の向上を図っている。また、第1体育館屋根改修工事を既設体育館を使用しながら行い、授業や部活動への影響を最小に抑えながら施設の環境改善を図った。</p> <p>《66》校内の老朽化状況を踏まえたライフラインの整備計画の検討を進めている。また、今年度は営繕要求事項として構内情報ネットワーク更新工事を行った。</p>	○
<p>①-4 PCB廃棄物については、引き続き専用倉庫に適正に保管するとともに、平成30年度に予定されている処分に向けて、円滑に履行できるよう準備をすすめる。(67)</p>	<p>《67》平成30年度のPCB廃棄物の処分に向けて12月に荷姿登録を実施した。また、低濃度PCB廃棄物については平成28年度中に処分を行った。</p>	○
<p>②-1 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配布する。(68)</p> <p>②-2 新入生及び新任教職員を対象に、「安全衛生に係る研修会」を実施する。(69)</p> <p>②-3 全学科において、学生を対象に安全衛生教育を実施し、報告書を作成する。(70)</p>	<p>《68》新入生及び新任教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布した。</p> <p>《69》新入生については、1年合宿研修の際に、実験実習安全必携を元に安全衛生教育を実施。新任教職員へは、4月20日に行った。</p> <p>《70》実験等を始める前に安全衛生教育を実施し、その報告書を安全衛生委員会に随時提出させた。</p>	○
<p>③ 男女共同参画推進室及びキャリア教育支援室が協力して、教職員あるいは学生を対象として、社会で活躍する女性講師を招いた講演会やセミナーを開くなど具体的な活動を行う。</p> <p>また、社会で活躍している女性起業者と本校女子学生による茶話会を開催し、本校女子学生の将来のキャリアを探る機会とする。(71)</p>	<p>《71》男女共同参画に関する情報があれば、広く学内に周知するようにし、女性向けの講演会やセミナー、研修等の案内があれば、女性教職員や女子学生へ積極的な参加を勧めている。</p> <p>また、教職員を対照とした「名古屋大学の男女共同参画への取組みについて」の講演会を11月26日に実施し、さらに学生向けに、県内で活躍されているマナーマネジネットの講演を幅広く手がけている女性を講師として招へいし、第4学年及び専攻科1学年の女子学生を対象に、講師を囲んでの茶話会形式で、女性社会人が直面している課題をテーマとした講演を12月21日に実施した。</p>	○
<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>①-1 科学研究費助成事業応募のためのガイダンスを開催する。(72)</p> <p>①-2 東海北陸地区の国立高専において、各校の外部資金獲得状況等に関して、Web会議による定期的な情報交換を行う。(73)</p> <p>①-3 複数の高専で連携して、技術展示会への出展を企画・実施し、技術シーズの発信を行う。(74)</p>	<p>《72》9月9日に、機構主催の講習会に参加した。9月28日に、総務担当主事による科研費公募に関する説明会を開催した。</p> <p>《73》東海北陸地区高専において、定期的にコーディネータのWeb会議を実施し、本校からは総務担当主事(とよたイノベーションセンター 副センター長)が参加した。今後は、ブロック化の流れもあり、テレビ会議を東海北陸の枠組みで継続するか検討が必要となっている。</p> <p>《74》11月16日～18日開催の、TechBiZEXPO2016に東海北陸地区高専において本校からも出展し、技術シーズの発信を行った。</p> <p>また、3月16～17日開催のとよたビジネスフェアに出展し、技術シーズの発信を行った。</p>	○
<p>②-1 地元自治体である豊田市と豊田商工会議所との連携組織である「とよたイノベーションセンター」を活用し、技術シーズの発信・技術セミナーの開催・技術相談等を通して、効果的な技術マッチングに取り組む。また、その成果を公表する。(75)</p> <p>②-2 愛知銀行・豊田信用金庫と連携し、金融機関を通じた技術シーズの発信に努める。(76)</p>	<p>《75》とよたイノベーションセンターのセミナー等において、本校シーズ集を配布するだけでなく、コーディネーターが企業に出向き技術相談等を通して広くマッチングに取り組んだ。</p> <p>《76》とよたイノベーションセンターと情報交換しながら、金融機関を通じたシーズの発信を働きかけた。</p> <p>また、とよたイノベーションセンターにおいて金融機関向けに技術セミナーを次の通り開催し、技術シーズの発信に努めた。6月11日愛知銀行名古屋駅前支店、7月13日豊田信用金庫本店、8月3日岡崎信用金庫本店、8月10日豊川信用金庫本店</p>	○
<p>③ 知的財産委員会を中心に、研究成果の知的資産化を促進する。また、平成25年度に構築された知的財産管理システムを活用し、知的財産関連業務の効率化を図る。(77)</p>	<p>《77》共同研究の成果として、発明届1件が提出され、特許として出願することになった。</p>	○
<p>④ とよたイノベーションセンターを活用し、豊田市や豊田商工会議所と連携した広報体制を整備することで、教員研究や技術シーズに関して、効果的な情報発信を行う。(78)</p>	<p>《78》とよたイノベーションセンターのセミナー等において、本校シーズ集を配布した。</p>	○
<p>⑤-1-1 小中学校向けの出前授業や理科教室の開催を通して、子どもたちの理科教育支援を行う。また、小学生を対象に、ものづくり体験と科学理解の向上を目的に、全国から参加者を募る「とよた高専おもしろ科学教室」を開催する。(79)</p> <p>⑤-1-2 豊田市が企画・運営している「とよたサイエンスクラブ」の活動に参画し、中学生を対象とした科学教室を開催する。(80)</p> <p>⑤-2 公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、内容の充実を図る。(81)</p> <p>⑥-1 同窓生等と連携し、卒業生の動向を把握し、卒業生による在校生のための講演会及び模擬面接講座などを開催するなど、引き続き卒業生とのネットワークの活用を図る。(82)</p> <p>⑥-2 地域貢献として年5回、駅から本校周辺区域の清掃を環境美化活動の一環として実施する。(83)</p> <p>⑥-3 一般市民を対象とした「地域活性化マスター講座」を開設し、エネルギーの地産地消を目指すことにより地域活性化と省エネルギーに貢献する。(84)</p> <p>⑥-4 学生が主体となる活動「ドミタウン」プロジェクトを実施し、過疎化が進む山間地と都市部の住民の交流を行い、地域活性化に貢献する。(85)</p>	<p>《79》11月26日に「とよた高専おもしろ科学教室」を開催し、48名の小中学生が参加した。</p> <p>《80》1月に1講座担当実施した。</p> <p>《81》アンケート調査を実施した結果、満足したとの回答が概ね9割を越えた。</p> <p>《82》11/9に同窓会と連携し、学科ごとに卒業生を講師に招き講演会を実施した。また、3/11に同窓会の協力を得て模擬面接講座を行った。</p> <p>《83》環境美化活動の一環として、平成28年は5/11,6/8,10/12,11/2に、平成29年は1/18に、駅から本校周辺区域の清掃を行った。また、学生会ならびに寮生会役員の学生が自治会主催の清掃活動やイベントにボランティアとして参加し、ごみ拾いやイベントの司会を行うなど地域に根ざした活動や活性化に向けた取り組みを積極的に行った。</p> <p>《84》9月にマスター講座を開講し、社会人10名が参加した。この講座は、小規模水力発電に注目し、発電原理の理解、小水力発電用水路の設計と実習を行うという内容で、受講後のアンケート調査では、全員が満足したとの評価であった。</p> <p>《85》豊田市の中山間地域の一つである笹戸地区において、地元自治会の協力を得て、「ドミタウン」プロジェクトを実施し、学生が中心となり活動した。8月には、都市部の小学生を集め、セカンドスクールを行った。参加した小学生及びその保護者からは、来年も参加したいとの要望があがった。今後の活動資金をどうやって集めるかが課題となっている。</p>	○
<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 他高専や大学と連携して学術交流状況の調査や海外視察を行うなど、海外学術交流や海外インターンシップに関する調査・検討を引き続き行う。また、本校の視察・見学を希望する海外の学生、技術者等を積極的に受け入れる。(86)</p> <p>①-2 国際交流協定の締結に向けて、教員の海外の教育機関との学術交流を引き続き進める。(87)</p>	<p>《86》7月に行われた昨年度機構主催の海外インターンシップに参加した学生(他高専生含む)の報告会(テレビ会議システム)に参加し、海外インターンシップに関する調査・情報収集を行った。3月29日にアジア生産性機構主催の東南アジア諸国の人材育成リーダー17名を含む21名の訪問団の視察を受入れた。</p> <p>《87》9月8日に本校で、ベトナムホーチミン情報技術大学(UIT)と合同で英語多読セミナーを実施した。また、UITでも1年生を対象とする英語多読プログラムが開始され、本校電気・電子システム工学科4年生とのWeb交流も含め、本校が支援した。</p>	○

# 平成28事業年度 自己点検・評価書

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告(自己点検書)	自己評価
①-4 機構及び東海北陸地区高専で連携し企画する海外インターンシップに積極的に参加させ、帰国後に多くの学生を対象に報告会を開催し、より多くの学生へ意識付けを図る。また、文部科学省が企画する海外インターンシップを学生に周知し、参加が決まった学生への事前・事後の指導を行う。 さらに、留学経験のある社会人による本校の留学予定学生に向けた講演会を開催する。《88》	《88》本年度、機構主催等が企画する海外インターンシップについて、案内がある都度、掲示等行い参加者を募ったが応募者はいなかった。 また、昨年度に機構主催の海外インターンシップに参加した学生3名が、7月に海外インターンシップ報告会に参加し、受入企業関係者の前で発表を行った。この模様については、ビデオ会議システムにて、全国の国立高専に配信され、本校においても教職員に周知し視聴した。なお、学内報告会については、昨年度帰国後にそれぞれの学科にて実施した。 さらに、7月初旬には、留学予定学生42名が参加した留学オリエンテーションを開催し、その中で、留学経験のある本校在学学生及び本校卒業生(社会人)が講演した。	○ 計画どおり実施できた。
② 国際交流委員会を中心に、外国人留学生に対する支援及び学生の海外留学(海外奨学金情報を含む。)の支援を引き続き進める。 また、外国人留学生の居室整備などの環境整備を進める。 さらに、機構などが開催する国際交流担当者研修会に参加し、留学生教育の質向上を図る。《89》	《89》AFS/YFUによる1年間の長期留学希望者41名に留学の説明を行い、そのうち32名が留学選抜試験に合格した。また、豊田市によるイングランド・ダービシャー市英語研修派遣(2週間)に昨年度に引き続き第2学年の学生1名を推薦し、派遣が決まった。短期留学では、官民協働海外留学支援制度トビタテ!留学JAPAN奨学金により、フィリピン及びタイにて電気・電子システム工学科第3学年の学生1名が約1か月間「無農薬、無化学肥料で作物を栽培する、オーガニック農法」に関する留学を行った。また、国立高等専門学校機構主催のリバブリック・ポリテクニク(シンガポール)での10日間のファシリテーションスキル英語研修に1名が参加した。 外国人留学生の体的および精神的健康を促進させ、チューターや教職員との交流のために、1か月に1回程度、国際交流委員会が主催するパドミントン交流を行った。また、学生寮において食生活での支援・補助に必要な電気器具(ミキサー)を食堂に設置するとともに、電子レンジ1台を更新した。 7月21日、22日に開催された「国際交流室・国際交流センター長会議」に出席し、他高専での外国人留学生への生活支援、高専の国際化および留学についての情報収集を行った。 9月29日、30日に国際関係教職員スキルアップワークショップに参加し、実習・演習を行い、担当者のスキルアップを図った。	○ 計画どおり実施できた。
③外国人留学生に日本の歴史・文化・社会・自然に触れさせる研修旅行を年1回実施するとともに、東海北陸地区留学生交流会に外国人学生を参加させる。《90》	《90》外国人留学生とチューターと情報交換、親睦及び異文化体験のため、日本の代表的・文化的施設が多数存在する京都へ研修旅行を計画し10月29日に外国人留学生、チューター全員が参加し実施した。 また、12月23日から12月25日に開催された東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会及び乗鞍英語キャンプ(国立乗鞍青少年交流の家、スキー研修)に、本校からは外国人留学生10名参加した。 豊田市国際交流協会登録団体の協力により、1月5日~7日に日本の家庭を体験するホームステイを企画し、3名の外国人留学生がそれぞれ日本人の家庭にホームステイしたことにより日本の文化・社会に触れることができた。	○ 計画どおり実施できた。
4 管理運営に関する事項 ① 校長裁量経費の計画的重点配分を行う。《91》	《91》5月24日の総務会議において、校長裁量経費を含む学内予算の配分を決定した。校長のリーダーシップの強化のため、前年度の約2.46倍の金額を確保した。校舎改修関連経費等校内大型事業経費を計上するとともに教育・研究の発展に寄与する「教員顕彰経費」、「学内ものづくり教育経費」は厳しい財政状況の中でも前年度水準の配分を行った。	○ 計画どおり実施できた。
②地区高専校長会議及び昭和38年度校高専校長会議において情報交換をするともに、ブロック校長会議で高専の在り方について検討を進める。《92》	《92》地区高専校長会議及びブロック校長会議で高専の在り方について意見交換した。(昭和38年度校高専校長会議はブロック校長会議と日程が重なったため欠席。)	○ 計画どおり実施できた。
③機構「業務マニュアル」を活用するとともに、本校「業務マニュアル」の充実と活用を促進する。《93》	《93》機構「業務マニュアル」を活用し、規則に基づいた会計処理を適正に実施するなど各部署において業務マニュアルの整備を進めている。	○ 計画どおり実施できた。
④-1 機構が作成した「コンプライアンス・マニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェックリスト」を活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。《94》  ④-2 内部監査の強化及び外部監査におけるフォローアップを図る。《95》  ④-3 全教職員及び学生による防災訓練を引き続き実施し、災害発生時への現実的な対応を浸透させる。《96》	《94》新たに本校に採用された教員には、マニュアルを配布するとともに、全教職員が確認できるようデスクネットにて掲載している。また1月末までに全教職員がセルフチェックを行い、コンプライアンスの向上を図った。  《95》全教職員を対象とした「公的研究費等不正使用防止に関する研修会」を実施した。全教職員に出席してもらうため、平成28年9月28日~11月24日の期間に同じ内容で計7回実施し、全教職員が受講した。不正使用の事例等について説明を行い、教職員の意識向上を図った。また、公的研究費を使用する際の注意点等をまとめた「公的研究費等使用ハンドブック」を新規に作成、全教職員に配付し、意識の向上を図った。  《96》10月19日に全教職員及び学生を対象とした防災訓練を実施した。この訓練では、より現実を想定して、非常放送設備による放送誘導及び一部経路が通行できなくなったものとして実施した。	○ 計画どおり実施できた。
⑥「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた教職員対象の不正使用防止研修会を実施する。《97》	《97》「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた全教職員対象の不正使用防止研修会を9月から11月にかけて実施した。研修実施内容の理解度を把握するため、理解度測定も行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑦-1 事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させる。《98》  ⑦-2 引き続き新任職員に対しては、年度早々に新任職員研修を行い、その他必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。《99》	《98》事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させた。  《99》4月中旬に新任職員研修を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑧ 事務職員・技術職員について、高専間、国立大学法人、大学共同利用機関法人等との人事交流を引き続き積極的に推進する。《100》	《100》事務職員について、国立大学法人等との人事交流を引き続き実施した。3月22日に新たに愛知教育大学と人事交流を含む連携協定を締結した。	○ 計画どおり実施できた。
⑨教職員への情報セキュリティの意思向上のため、情報システムユーザガイドラインの周知徹底と電子アンケートの確認などで研修を実施する。《101》	《101》情報システムユーザガイドラインによる周知及び情報セキュリティ管理体制等をグループウェアに掲載し周知している。 また、教職員を対象とした情報セキュリティ教育(eラーニング)を実施し、情報インシデント対応シートを携帯サイズにして配布し周知した。	○ 計画どおり実施できた。
II 業務運営の効率化に関する事項 ①-1 一般管理費については、光熱水料の一層の縮減を検討するとともに施設環境整備委員会における環境指針の策定による省エネの促進を図る。《102》  ①-2 業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握の上、整理を行い、人員の適正配置等を検討する。また、職員については、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的活用を推進する。《103》  ②-1 平成21年度に機構本部から示された「一者応札・応募に係る改善方策について」に基づき、引き続き、契約手続きの改善を図る。《104》	《102》5月27日の施設環境整備委員会で「平成28年度 豊田工業高等専門学校の環境目的、環境目標及び取組内容」を策定した。これを踏まえた省エネへの取り組みとして、空調温度設定の徹底を図り、さらに使用実態の調査として、各部屋の巡回を実施して、不適正な場合は、その改善を図った。また、総務会議及び施設環境整備委員会で定期的に光熱水料の実績報告を行い、更なる省エネを啓蒙した。  《103》業務マニュアルの見直し等により、各係の業務内容を把握に努め、適正な人員配置、有為な人材の育成及び職員の適材適所への配置を推進している。また、変形労働制のさらなる効率的な運用を検討している。  《104》仕様内容の策定に当たっては、より多くの業者が参加できるように努めている。また、これに加え、入札公告の期間を2週間程度は確保するように努めている。	○ 計画どおり実施できた。
III 予算 ①引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。《105》	《105》外部資金の取得に積極的に取り組んだ。 科学研究費助成事業の採択を向上させる一環として、総務担当主事による科研費公募に関する説明会を9月28日、10月3日及び10月14日に実施した。	○ 計画どおり実施できた。
VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 学生町内の職員宿舎の順次廃止及び宿舎跡地の利活用を検討するとともに、キャンパスマスタープランに基づいた整備計画を検討する。《106》	《106》キャンパスマスタープランに基づき学生町職員宿舎の廃止計画及び跡地利用の検討を行い、新たな整備計画の検討も行き、今年度計画している廃止計画に基づき職員宿舎の取り壊し工事を行った。	○ 計画どおり実施できた。
2 人事に関する計画 (1) 方針 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に進める。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。《107》  (2) 人員に関する指標 業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討する。変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的な活用を推進する。《108》	《107》教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を行っており、本年度は受入1名であった。  《108》引き続き業務マニュアルの見直し等により、各係の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討している。また、変形労働制のさらなる効率的な運用を検討している。	○ 計画どおり実施できた。